

舞姫のレポート

・テーマ 弱い人間豊太郎とエリス

この話は豊太郎とエリスの「心の弱さ」が悲劇的な結果を招いたことを書いているので、どういう弱さがこのようにしたのかを書こうと思った。

・どんな風にこれから論を進めていくのか

豊太郎とエリスの「心の弱さ」を抜き出して自分なりに推測する。また何故そのようになるのかなども、自分なりに書く。

・結論

「心の弱さ」がいかに悪い結果を生み出してしまったか

本編

豊太郎は幼い頃から厳しい躰をされて、遊びをする時間が無くされてしまったと思う。だから論理的な思考は優れていたが、人間的な面や柔軟性がかけてしまったと思う。常に親や他人から作らされた道を歩んでいたが、自由な校風に長年過ごした所で真の我が出てきたと述べている。ほかの面に心が乱されること無く勉強をし続けた理由は、ほかのものを捨てかえりみないほどの気概があったからでなく恐れて自分の手足を縛ったとある。自身を前途有望であることを疑わず、どんな困難にも耐えられる意思の持ち主と信じていたが故郷を離れて涙が出たので冷徹な人物というより繊細な人物といえる。エリスと出会い人を愛する気持ちが出てきたが旧友の相沢に知られ、エリスとの縁を断つように言われ、信頼している人には考えもせず承諾してしまう癖のある豊太郎はすぐその案にのってしまい、大臣のときにもそうなった。そしてエリスが狂ったときは涙を流すことしかできなかった。豊太郎は弱さがわかってても克服する力がなかった。

推測

- ①父を早くに亡くし、厳しい教育を受け自身も勤勉だったがそれは立派な官職に就くために作られた人格だった。
- ②豊太郎がほかのものを恐れたのは勉強以外の取り組みを知らなかったから。
- ③自分の立場が危ういことに恐怖したのはエリートの道を捨てきれなかったから。それなりのプライドはある。
- ④相沢の態度について不安を感じる事ことから、自分に期待してくれる人を裏切りたくないと思っている。

豊太郎の弱さ

豊太郎は自分一人で物事を決断できず、嫌な結果を避けようとする所があり自分を汚すことができない。相沢についてもエリスについても何か言えばよかったがそれもできなかった。挙句の果てに倒れてしまう精神的な弱さがあった。自身の弱さがわかってものりこえる強さがなく、避け続けてどうすることもできないまま日本へ帰ってしまった。臆病で逃げてしまい、人に意思を伝えることができない弱さ。そしてその弱さゆえに、ずっと周りに流され自分を欺き、他人の為によい結果となるようにしようという願望が強かった。

いい人そうに見える見ず知らずの外国人に自分のことを話しシャウムベルヒを頼ったが、助けてくれなかった。そこで豊太郎に救いを求めた。豊太郎を失うのを極度に恐れている所や他人に執着しすぎている所がある。人に金を用意するように頼んだり、私を憎むことは無いでしょうと言ったり、愛情が深いせいか私を決して見捨てないでと手紙に書いたり、エリスが日本に行く時の旅費はどうにでもなるだろうと書いたり身勝手な所があった。そして最後には相沢によって精神が狂ってしまった。

推測

- ①エリスは貧乏だったので金銭面に関しては自分一人でどうすることもできず、シャウムベルヒを頼ったが何もしてくれなかった。だが、豊太郎に助けてもらいこのことから何かしらの縁があると思い、恋にまで発展した。
- ②私を見捨てないでと言っていることから他人につきはなされることを恐れている。
- ③豊太郎がロシアへ行っている時、毎日手紙を送ったのは常に自分の事を忘れないでほしいと願っている。豊太郎を心配する気持ちもあったがそれよりも早く戻って来てほしいという願いや、自分から離れていることに耐えられないという気持ちがあった。これは手紙で私をすてないでと書いていることから思える。自分の都合がよくなることを考えている。
- ④豊太郎が帰ってきてわが命はきっと絶えてしまったに違いないと言っていることから、豊太郎を本気で愛しているのがわかり、一時も離れず視界に入れるようにしたいと望んでいるような感じがする。もし豊太郎が帰って来なかったらここで精神が狂ったと思う。
- ⑤そこまで私を騙していたのかと叫んで狂ったことから相沢に今までの自分たちの過ごしてきた時間や信じてきたことをまとめて全部否定された内容を聞かされたと思う。

エリスの弱さ

人に頼りすぎる所がある。事がうまくいかないと深く悲しんだりする精神の弱さ。その弱さゆえ他人に執着する強さがあった。だが、①、⑤からエリスも人に流される人物だと思う。①で豊太郎を頼りにし、⑤で相沢の言葉で豊太郎を信じられなくなって思い込みの強い人物ともいえる。

まとめ

豊太郎は人に言われたことを否定できず肯定したままで難を逃れようとしたが、逃げることができずエリスを狂わせる結果となった。逃げ続けても逃げきれないところが出てくるし後から大きな代償を払うときが来てしまうことを教えている。この結果は豊太郎の自分の意見を言わない弱さ、物事をはっきりする決断力の無さとエリスの一人では何もできない弱さ、不運に耐えられない弱さがぶつかって招いたものだと思う。

もっと言えば、豊太郎は自身の弱さがわかっていたが、エリスは自分が弱い人間とわかっていない。だからすぐ精神が不安定になるものだと思う。

ここで疑問に思ったのは豊太郎とエリスの過ごした時間は長いはずだが、相沢の言葉で壊されるほど脆いものだったのだろうか。